

東京都多摩地区での3歳児健診のご紹介

北原 恵理子

立川相互病院 視能訓練士

現在、私は立川相互病院の眼科に非常勤職員として勤務しています。この勤務と並行して、東京都多摩地区7市の3歳児健診業務に従事しています。2020年の視能訓練士実態調査報告書では、女性の19%が非常勤職員として勤務していると報告がありますが、病院と多数の自治体に携わる勤務形態は少数かと思えます。

今回は私が従事している多摩地区7市の3歳児健診についてご紹介させていただきます。東京都では3歳0～1か月児に健診を行っており、私が携わっている全ての自治体では視力検査に絵視標を使用しています。ランドルト環を使用した場合と比べ弱視検出率が下がるという報告もありますが、自覚的評価は必須であり、3歳0～1か月児の視力検査の可能率を上げるために絵視標を選択しています。視標はリンゴ、飛行機、車、傘の4種(図1)を用いていますが、最近ではリンゴを「ケイタイ」と答えるお子さんもいます(携帯電話のiPhoneのマークだと思うようです)。発音がまだ不明瞭なお子さんもいるので、その場合は絵のマッチング法(見本を指さして答える)をとることもあります。

1997年に母子保健法が改正され乳幼児健診の実施主体が市町村となった為、私が従事する7市でもそれぞれ方法が異なっています。眼科部門は視能訓練士1人で担当する自治体が多いです。眼科1次検査として自宅視力検査や視力に関するアンケートを行うのはどの自治体も共通ですが、眼科2次検査として保健所に来所した全てのお子さんに眼科検査を実施する自治体もあれば、自宅視力検査不良やアンケート項目にチェックがあるお子さんにのみ実施する自治体もあります。さらに、2017年に厚生労働省から3歳児健診会場にて必ず視力検査を実施するよう通達があったことを受け、新たに眼科検査部門を立ち上げた自治体もあります。また、私が



図1 使用している絵視標

携わる全ての自治体では検影法による屈折検査を実施していますが、最近はそのに加えてスポットビジョンスクリーナーを導入する自治体が増えてきました。

2020年の新型コロナウイルス感染症拡大以降、東京都では緊急事態宣言を繰り返しており、健診現場でもこれまで以上に感染予防対策が欠かせない状況になっています。まず、どの自治体でも受付での体温測定・手指消毒を徹底しています。密を避けるため部屋のレイアウトを変更し、待合の椅子の間隔を空け、換気をしています。さらに付き添いの保護者は1人までに制限し、少しでも安全を確保できるよう健診スタイルを変更しました。また、1回の健診での来所人数が少ない(20人以下)自治体では、待合室の椅子に番号を貼り(図2)、各検査・診察の待ち時間は常に同じ番号の椅子に座るよう工夫しています。1回の来所人数を少なくするため健診開催回数を増やした自治体もありますし、密を避けるため受付時間を区切って来所を案内している自治体もあります。

眼科検査での感染予防対策としては、眼位検査で遠方の固視目標としてぬいぐるみを使用していましたが、お子さんが触りたがってしまう



図2 番号を貼った待合椅子

ので消毒可能な平面視標に変更しました（図3）。

検査する親子が入れ替わる度、検者の手指消毒やお子さんが座った椅子、触れたものを消毒しています。健診に携わるスタッフ全員が感染対策を怠らず、徹底していることにより、現在私が従事している自治体での健診において新型コロナウイルス感染事例はありません。

健診業務後にはカンファレンスが行われ、視能訓練士だけでなく保健師・看護師・栄養士・歯科衛生士など様々な職種の健診担当者が参加しています。各職種の視点からさまざまな情報の共有を行います。保健師が問診を行う際、眼科的観点から気を付けるべき点は何か、眼科で精密検査受診票発行に至ったお子さんの詳しい理由など、眼科専門分野について他職種の方に質問されることもある為、日々の勉強を欠かさ



図3 平面固視目標

いくつかある絵のうち「イチゴはあるかな？」など声掛けして固視を促します

ず、理解いただけるよう分かりやすく説明する努力をしています。各自治体で健診の実施状況が異なりますが、健診では異常の可能性のあるお子さんを見逃さない事が重要であり、また来所した保護者に健診を受けて良かったと思って頂けるよう常に心掛けています。健診現場ではまだまだ経験年数も少なく、若輩者の私ですが、健診精度を向上させ早期発見につながるよう他職種と連携しながら今後も研鑽を積んで参ります。